

令和 5 年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立東淀中学校

令和 5 年 11 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

過去 3 年間において新型コロナウイルス感染症の影響により運営に関する計画に従つた取り組みも制限や変更、中止があり、校内の現状や課題に対して効果的に生徒への支援や改善ができなかつた部分もあった。今年度においては、活動制限することなく、感染防止対策は取りながらも効果的な活動を実施する。課題解決に向けて学校運営を進めていく。

生活指導面においては生徒の問題行動が減少し、落ち着いた状況で学校生活を送ることができている。しかしながら、授業態度など生徒の主体的な行動を高める必要がある。また、いじめなどの防止については、これまでと同じように生徒への指導を維持しなければならない。生徒自身の意識については、アンケート結果から年々向上している。「授業中まじめに学習に取り組んでいる」の質問では、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 50 % である。しかしながら「学校に行くのが楽しい。」との質問に肯定的に答える割合は、83 % であるものの、「どちらかといえばそう思う」という消極的に肯定する生徒が肯定する生徒全体の約半分に及ぶ。生徒の意識も含め、まだまだ多く改善する余地がある。

不登校生徒は大阪市平均に比べ高い状態にある。個に応じて適正に対応しているが、引き続き生徒個人の把握と事前防止につながる仲間づくりを推進していく。不登校生徒に対して外部機関や校内での対応もしながら改善に向けて継続的に取り組んでいく。

学力面においては、全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテストの本校の平均はどの教科においても大阪市平均を下回っている。改善傾向にあるものの、同一母集団での変化では、大阪府平均に比べてやや下回る教科もあった。チャレンジテストにおいては、得点が府平均の 7 割未満である生徒の割合が依然多く存在している。

これまで安定した生活習慣の獲得とキャリア教育を行うことで、進路選択の意識を高めて教育活動を進めながら「確かな学力」を目指してきた。特に外国語教育の中長期的な対策を最大の課題として、外国語教育における小中連携を発展させ、校内でも英語教育に力を注いできた。これらについては学力テストの結果や校内アンケートの結果から一定の効果が認められた。今年度においてもこの方向性は維持しつつ、授業そのものを見直し、「わかる」「できる」授業の推進により、基礎学力の定着と個に応じた学力向上を推進していく。また、今後も学力向上に向けて自学自習の習慣を身に付けさせたい。さらに、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上とする
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする
- 令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合^{*}を65%以上とする。

※大阪市教育振興基本計画の不登校への対応より抜粋

前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど総合的な判断により、不登校の状態が改善されたとする人数を把握

- 1 出席日数の増
- 2 I C T の活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数の増
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語・数学とも0.95以上とする。
- 令和7年度の大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上とする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均を男女とも全国平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクトなどのI C T機器を積極的に利用している」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする
- 令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」の項目についての肯定的回率を80%以上とする。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を40%以上とする。
- 令和7年度末において教員の勤務時間の上限に関する基準2^{**}を満たす教職員の割合を80%以上とする。

※学校園における働き方改革推進プランより

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。

（現状 80%）

○年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。

（現状 10.5%）

○年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる

（現状 33.3%）

学校園の年度目標

①年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

（現状 58%）

②年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を78%以上にする。

（現状 76%）

③年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

（現状 保護者 24% 生徒 44%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。

（現状 33%）

○中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

（現状 3年 国 0.93 数 0.87 2年 国 0.90 数 0.93）

○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を40%以上とする。

（現状 38.5%）

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を57%以上にする。

（現状 55%）

学校園の年度目標

①3年生における英検3級を取得している生徒の割合を前年度より増加させる。

（現状 32.4%）

②年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

（現状 84%）

③令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。

（現状 男子 39.59 女子 47.32）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- デジタル教材を活用した朝学活を週2回実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする

学校園の年度目標

- ①年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。

(現状 27%)

- ②年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。 (現状 49%)

- ③令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を昨年度よりも向上させる。

(現状 75%)

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立東淀中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。 (現状 80%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。 (現状 10.5%)</p> <p>○年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる (現状 33.3%)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>①年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。 (現状 58%)</p> <p>②年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を78%以上にする。 (現状 76%)</p> <p>③年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。 (現状 保護者24% 生徒44%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの認知をアンケートや日々の観察による早期発見、早期解決を図り、いじめを許さない心を育てていく。</p> <p>指標</p> <p>「いじめについて考える日」を設定して、いじめに関する校長講話と学級活動を行い、いじめを許さない学級・学校づくりについて学校全体で再認識する。</p> <p>学期に1回いじめアンケートを実施し早期発見、早期解決を図る。</p> <p>いじめについての全体研修会を年5回以上実施し教職員の共通理解を図り、学年ごとに年3回以上いじめに関する取組を実施する。</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。</p>	B

取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】

生徒の情報交換を密に行い、教職員が生徒理解に努め、問題行動や不登校の未然防止をするとともに早期発見を行う。生徒一人ひとりに寄り添った適切な支援を行うことで、問題行動や不登校の早期解決を図る。

指標

学年は随時、週に 1 回主任会、教職員全体に月 1 回生徒の情報交換を行う。生徒一人ひとりの実態を把握し、それに応じた指導・支援をするため、学期に 1 回教職員全体でスクリーニング会議を開催し、必要に応じて外部機関と連携する。

日々生徒理解に努め、「アセス」を活用するとともに年 2 回以上教育相談を行う。

不登校の生徒において家庭と連携しながら学校に登校できるように支援する。不登校の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

B

取組内容③【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】

自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成するため、区や消防署、地域連携して防災・減災教育を推進する。

指標

「防災・減災カリキュラム」を適宜見直し、年間計画をもとに防災・減災教育を進める。年間 2 回以上校内で避難訓練を行い、防災意識を高める。区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を生徒が主体的に取り組める活動になるよう実施する。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

B

取組内容④【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】

生徒の勤労観や職業観を育てるため 3 年間を見据えたキャリア教育の計画を作成し、実践する。

経年で職業講話、職場体験、出前授業とつながりを持った取組を行っていくことで将来への具体的な目標を持たせ、自発的な学習意欲と自己肯定感を育んでいく。

指標

キャリアパスポートを活用しながら体系的・系統的にキャリア教育を進めるとともに、企業や団体との連携し、各学年とも年間 2 時間以上でキャリア教育体験活動を実施して進路選択への意識を高めていく。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 78 % 以上にする。

B

取組内容⑤【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】

人権教育や道徳教育の推進し、道徳心・社会性の育成を図る。さらに、集団行動訓練や活動を通じて、安全に配慮し、自他の生命の尊厳とともに互いの大切さを認め合い、支え合いながら問題解決できる集団づくりを推進する。

指標

人権教育年間指導計画と道徳教育年間指導計画を作成し、計画的に実行する。命の大切さを自他ともに実感できるような取組を系統的に実施する。各学年で生命の大切さを育む授業を年 1 回以上行う。校内での格差や差別・偏見を生まない環境を整え、学校行事において集団づくりの取り組みを行い、自他の生命と尊厳を互いに

B

尊重し合う態度や自他の人権を守る実践行動につなげることで、年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①について

・「いじめについて考える日」に校長から全校生徒に講話をした。また、学期に1回のいじめアンケートを計画通り実施し、いじめの早期発見、早期解決を図っている。

・生徒理解の研修をこれまでに4回実施しており、いじめ防止のための研修を12月に1回実施する予定である。

・各学年の取り組みも進めている

1年：一泊移住、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

2年：体育的行事の取り組み文化発表会での取り組み

3年：修学旅行、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は81%で、昨年度よりは1ポイント向上しているが、目標値まであと1ポイントである。

取り組み内容②

・主任会や学年会、職員会議で生徒の情報交換を行っており、全教職員で生徒を見守る体制をとることができる。

・1年生で「アセス」を実施し、生徒理解に役立てている。また教育相談は1学期と夏休み直後の2回実施し、2学期末、3学期末にも実施予定である。

・不登校の在籍比率は全体で10.9%であり、昨年度（10.5%）よりも増加している。しかし、改善傾向にある生徒も多い。

・昨年度からの不登校の改善数は、52名中25名で34.6%と昨年度（33.3%）より増加している。

取り組み内容③

・1学期に不審者侵入を想定した訓練を実施予定であったが、大雨の為、緊急下校となり中止となった。3学期に実施予定である。2学期に地震を想定した避難訓練を実施する予定で、区や消防署、地域と連携した防災・減災教育を行い、体験をえた学習を行う予定ある。

・夏休み前には梅田少年サポートセンターの方に来校していただき、全校生徒対象に防犯教室を実施した。

「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は、57%であり、昨年度と同水準である。これから実施するものもあるので、生徒の安全に関する意識を高めていきたい。

。

取り組み内容④

・キャリアパスポートを活用している。また各学年での取り組みも進めている。

1年：職業新聞づくり 2年：職業体験 3年：自分の将来を考えよう（冊子）、進路学習

「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合は76%であり、やや昨年度より下がっているが、アンケート後に実施した行事もあるので、結果に反映されていないと考えられる。

取り組み内容⑤

・1年生では一泊移住、2年生は校外学習を2回、3年生では修学旅行を実施し、集団づくりの取り組みを行っている。

・各学年で命の大切さを育む講話を講師の方を招いて実施予定。

「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「思う」と回答する割合は42%で昨年度より下回っているが、日々の取り組みの中でしっかりと意識をさせる必要がある。

次年度への改善点



(様式2)

大阪市立東淀中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】	
全市共通目標（中学校）	
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。（33%）【R5前期41%】	
○中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。（3年 国0.93【0.91】 数0.87【0.88】 2年 国0.90 数0.93）【現状】	
○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を40%以上とする。（現状 38.5%）【実施中】	B
○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を57%以上にする。（55%）【R5前期54%】	
学校園の年度目標	
① 3年生における英検3級を取得している生徒の割合を前年度より増加させる。（現状32.4%）【実施中】	
②年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。（84%）【R5前期91%】	
② 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。（現状 男子39.59 女子47.32）【実施中】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 習熟度授業など個に応じた学習の推進をするとともに校内で相互参観週間を設け、全教員が研究授業を行うことによって授業改善を意識し、「わかる」「できる」授業を推進し、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させる。	
指標 ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行う。授業を伴った校内研修会を実施し授業改善をすることで、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。（R5前期41%）	B

<p>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 各教科、各学年で学力向上に向けた取り組みを進める。各教科において家庭学習課題や長期休業中における学習課題を精選、提供する。学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学習会を開催することで学習機会を増やし、自学自習の習慣を身につけさせる。学力向上を進めていく。</p>	
<p>指標 各教科で全市共通テスト等の結果データを分析し、授業で活用するとともに共通テスト前にプレテストや対策学習を実施する。テスト前学習会の実施、放課後学習会を週2回以上開催する。 【実施中】 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 (3年 国 0.93 [0.91] 数 0.87 [0.88])</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-Net講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。 校区3小学校に先生を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。</p>	
<p>指標 3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-Net講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合を昨年度より向上することを目指し、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を40%以上にする。 【実施中】 英語教諭を小学校に派遣し、年間100時間程度、校区3小学校での英語授業を行う。 【実施中】</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 体育科においてダンスの授業に力を入れ、外部講師とも連携しながら、リズム感の育成と集団育成に役立てていく。</p>	
<p>指標 1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を行い、年3回以上の校内実技研修を実施し、授業においての成果を発表会の場で表現できるようにする。年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を57%以上にする。 【54%】</p>	B
<p>組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 部活動の活性化を図り、体力の向上を目指すとともに、目標や成長の過程を身近なものにすることで、自尊心や達成感を持たせる。 保健体育の授業や体育行事を通じて運動意欲を高め、体力向上を図る。</p>	
<p>指標 新入生に部活動への体験入部期間を設け、適正かつ希望する部活動へ入部できるようを行う。部活動指針に従い運営し、プレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで、年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する</p>	B

生徒の割合を85%以上にする。また、体育大会等の体育行事や日々の授業においてスポーツの楽しさと体力向上を意識させ、参加・活動させることで令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。

【91%】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

・取組内容①

前期学校アンケートの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」との問い合わせに肯定的な「思う」の回答が目標値を超えている。故に、「B」の目標どおりに達成したと言える。

・取組内容②

「中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。」という目標に対して3年の国語では0.2ポイント下回ったが、数学では0.1ポイント向上させている。本テスト結果を解析し課題を明確にすることで家庭学習課題や長期休業中の課題の充実を図り、自学自習の習慣を常態化していくことで学力向上につなげていく。

・取組内容⑤

前期学校アンケートの部活動について「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問に対して肯定的に答える生徒の割合が目標値を超えている。引き続きプレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで部活動のさらなる活性化を図り、体力の向上につなげていく。

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立東淀中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>○デジタル教材を活用した朝学活を週2回実施する。</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>①年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。 (現状 27%)</p> <p>②年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。 (現状 49%)</p> <p>③令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を昨年度よりも向上させる。 (現状 75%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す。また、デジタル教材の活用で個に応じた学習と主体的な学びの育成を推進する。一人一台端末の使用により生徒の心の状態や日々の状態を可視化することで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見につなげる。</p> <p>指標</p> <p>授業でICT機器の利用を進めることができるように環境を整え、授業でICT機器の活用を行う。年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。デジタル教材を活用した朝学活を週2回以上実施する。一人一台端末を活用して、心の天気、いじめアンケート等を入力させることで情報を共有し、生徒理解を深める。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・しなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革を推進し、教員の長時間勤務の解消をしながら、生徒一人ひとりに対して向き合う時間を確保し、教員が健康的でかつ活気ある職場環境を目指す。</p> <p>指標</p> <p>毎週水曜日をゆとりの日と設定し、校内月中行事に記載する。実施日には、管理</p>	B

職よりゆとりの日を宣言し連絡黒板に明記する。ゆとりの日においては、原則生徒対応・生活指導対応以外は午後7時までの退勤とする。

これまで実施していた長期休業中の学校閉庁日の設定を継続して実施することで有給休暇の取得を促し、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】

生徒の読書環境を充実させることで読書を促し、読解力を高める。

生徒による文化委員会の活動を中心に、図書への意識を高め、図書室利用の活性化を図る。図書室の利用を通じて多様な知識を身に付けさせるとともに、広い視野で物事を考える力を養う。

指標

今年度内に図書室や学校図書等の活用する方法を議論し、取組を検討し実施する。

定期的に行う文化委員会の活動で図書室利用を促進する方法を議論して取り組む。毎月1回図書館だよりを発行し、図書への意識を高める。

年に1回リサイクル本フェアを実施し、気軽に図書を手に取ることができる機会を設ける。

年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。

B

取組内容④【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

学校協議会により保護者や地域住民など学校関係者の意向を反映し、学校運営を行う。学校の情報を広く発信する。学校元気アップ地域本部事業を活用してボランティアによる学校支援を行う。これらの取り組みによって開かれた学校づくりを推進する。

指標

学校協議会において運営の計画の策定に意向を反映させる。

学校ホームページにて積極的に情報を発信して年間閲覧件数を80,000件以上にすることで、年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。学校元気アップ地域本部事業を活用して週2回の放課後学習会、テスト前学習会、週1回の図書室において地域ボランティアを配置することで自主学習支援、図書室の活性化を図る。

C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

教育環境の充実に関わる4つの指標のうち、基準としているアンケート調査における回答の結果は昨年度後期のものと比較し、取り組み①+5%, ③+5%, ④-3%となった。また、取り組み②についても、現状30%の職員が有給休暇を10日以上取得しており、教員の健康的な職務遂行に向けて年度内に達成できる見通しである。以上から達成状況はBとした。今後は続けて、朝学活などにおけるデジタル教材の活用を実践して、新しい教育活動の形を取り入れていけるように取り組みたい。

次年度への改善点

